



特定非営利活動法人

## 神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 382

Mai 2023

### NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE  
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

## 2023年度通常総会報告

NPO法人神戸日独協会会長 柘田 義一

2023年度通常総会が5月20日(土)に神戸日独協会会議室にて対面形式で開催されました。

各議題の報告・審議が行われ、すべての議題が了承されました。

2022年度の事業報告では伝統のクリスマス祝賀会など幾つかの伝統行事が対面形式にて復活開催されたこと、ドイツ語講座とドイツ文化教室と特別講座及び会員による各種サークル活動も年間を通じて定期的に行われていたことが報告されました。

決算報告では会員収入は前年度より法人会員は増加し個人会員も微増したこと、事業収入はコロナ禍以前の事業が全て復活できなかったにもかかわらず幸いにも予算案よりも増収であったことから、経常収入はコロナ禍を見据えて控え目な予算案でしたが黒字決算でした。

しかしながらほぼ恒常的である協会運営のための管理費は前年より微増をしました。事務室維持のための経費に関して年度内の移転を見込んだ予算としましたが、年度内移転が出来なかったために支出増となりました。経常収支差額は、2021年度は138万円のマイナスでしたが、2022年度は55万円のマイナス決算でした。

2023年度事業計画案では主催行事をコロナ禍以前のように月1回開催を目指すこと、移転先の利便性を活用して「ドイツの歌を歌う会」「ドイツ料理教室」「ドイツ映画鑑賞会」等の復活、コロナ禍によって習熟したオンラインを活用しての国内外の諸団体との交流、移転先の神戸リガッタ・アンド・アスレチック・倶楽部との連携活動などを積極的に行い、協会活動の活性化が提案されました。収支予算案では特に個人会員増を目指すこと、会員コンサート・ドイツワインイベント等の復活や各種セミナー等による事業費増を目指すことが提案されました。経常支出に関しては協会事務室維持費が大幅に減額となり改善されます。6月に予定している事務室移転に伴う「移転関連経費」を今年度は計上しているために、経常収支は若干のマイナス予算とならざるを得ないことをご理解ください。

前任者の転任により、後任の垣内正雄氏(神戸市市長室国際部長)とEnzio Wetzel氏(ゲーテ・インスティテュート大阪・京都館長)及び小坂節雄氏(ハンブルク元総領事、自民党議員団政務調査員)の理事就任が承認されました。

最後に会長より「協会事務室移転」について、移転に至った事情、移転問題の審議経過、移転決定の経過が報告され、新事務室の概要と移転日程計画が説明されました。

残念であったのは総会ご出欠のお返事をいただいた会員が極めて少なくご出席も少数でした。このことから議事について簡略ながら説明をさせていただきました。

会報前月号「事務所の移転について」で述べましたお願いをいま一度繰り返させていただきます。この事務室の移転を、長きに渡ったコロナ禍後の社会・経済的な再活動の始まりと共に、**新しき環境における協会の再出発の願ってもない好機**と捉えて、協会の停滞気味であった活動を以前にも増して活発化していきます。会員皆様も協会の主体として一層のご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



## 2023年度通常総会・会員懇親会に参加して

会員 清水 裕子

2023年5月20日(土)に神戸日独協会事務所で総会が開催され、参加しました。残念ながら、神戸国際会館で行われる最後の総会になってしまいました。

2022年度の事業報告や決算報告、2023年度の事業計画や収支予算案、新任理事の承認と審議は順調に進み、第6議案の協会事務室移転についての報告がありました。

移転先の神戸リガッタ・アンド・アスレチック・倶楽部は、神戸国際会館から徒歩5分ぐらいの磯上公園内にあり、倶楽部自体の発足は明治3年と由緒あるクラブです。長年お世話になった神戸国際会館を去るのはとても残念な事ですが、1Fにレストラン、2Fに100人ぐらい収容できるホールもあるので、今後の日独協会の活動にとっても便利な場所と言えそうです。

報告を受けて、参加された会員の方々は新しい場所での活動を期待されているように感じました。コロナも一段落した事もありロインで行われた会員懇親会も大変にぎやかでした。

自己紹介の時には、会員になった経緯やドイツとの繋がりなどを篤く語っていただき、改めて参加者の「ドイツ愛」を知る良い機会になりました。

### 事務室移転について

事務室移転に関する情報については、7ページの **事務室移転情報** をご覧ください。  
今後の移転日程などの情報については、決まり次第協会ホームページにて発表します。  
引越・移転先など移転に関するお問い合わせは協会事務室へお願いします。

## ご案内

# 「GIGAスクール特別講座～GIGAは国境を越える！～」

## 第2回 ドイツ大使館

「GIGAスクール特別講座～GIGAは国境を越える！～ ドイツ大使館とつながりたい！」

令和5年6月5日(月)14:00～14:45(45分間)

G7サミット及び関係閣僚会議等の開催を契機として、関係国との友好を一層深め、国際理解教育を推進するため、仏、米、英、独、伊、加の各国大使館の協力のもと、「GIGAスクール特別講座～GIGAは国境を越える！～」を6回に分けて実施します。全国どこからでも参加が可能であり、関係国との友好を一層深め、国際理解教育を推進するための貴重な機会となります。

大使館外交官等と学校を中継で繋ぎながら、外交官等から国の魅力や歴史などの紹介やクイズを出題いただく予定です。

外交官等からのお話やクイズの解答を考えることを通じて、関係国の生活や文化への理解を深めます。

対象は小学校(高学年)ですが、小学校(低学年・中学年)、中学校、高等学校等、どなたでも視聴可能です。大学生、大学院生や学校関係者以外の一般の方の視聴も歓迎します。

参加方法は、文部科学省からライブ配信する内容を You Tube で視聴します。事前申し込みは不要です。You Tube の接続方法、URL 等については、追って事務連絡にてお知らせします。

(文部科学省初等中等教育局GIGA StuDX推進チーム案内メールより一部改編)

☆島多峰史理事(尼崎市立武庫中学校校長)よりの情報提供です。ご興味のある方は是非ともご視聴ください。You Tube の接続方法等については、協会事務室へお問い合わせください。

## ドイツ語談話室

### 第222回ドイツ語談話室

日時 : 2023年4月15日(土)14:00～16:00

場所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : 早春

今回の司会はドロテア合田さんが担当され、ドイツやヨーロッパで春の持つ意味合いは恐らく日本での春の意味とインパクトが大きく違くと話された。春は緑の季節で、長く重苦しかった冬から解放され、山や森は緑にあふれて気分が晴れる。衣類も軽くなって春めいた色に変わり気持ちが華やぎ、物事が始まろうとする季節だ。

今回の談話室には、かつて岡本のOAG所長であったニッツさんが参加されて、その後ドイツに帰国されていた時のお話や、再び来日されて加古川に住んでおられる様子をお聞きました。

以下に、参加者の皆さんの発言の一部を紹介する。

- 春になるとよく眠れて朝寝をしてしまうことが良くある。かつて、中国の詩人孟浩然も“春暁”にそのことをうたっている。“春眠暁を覚えず”で始まるあの有名な詩の通りだ。
- 春になると思い起こすのは、清少納言の“枕草子”冒頭に出てくる、“春はあけぼの”の文章である。日本人の感性にぴったりくる文章だ。
- これからはアスパラガスの季節で、ドイツの白くて太い物に比べ日本の物は細くて緑色であるが、ゆでたアスパラガスにバターソースをかけて頂くのは最高である。
- 以前学校の入学式と言えば、満開の桜の花が付き物だったが、この頃は温暖化で桜の開花がずっと早くなってしまっているのは残念だ。
- 桜の季節はまた花粉症の季節でもある。戦後木材の必要から政府が成長の早い杉を多く植林した後遺症が今人々を苦しめている。
- 日本で花粉症が多い一つの原因に、日本人は何かあるとすぐ薬を多用する傾向があり、これら薬品の副作用も大いに関係しているのではないだろうか。
- この季節になると我が家の庭には多くの花々や花木が満開となり、とても賑やかになりその手入れが大変になる。春には、“北国の春”の歌が懐かしく思い起こされる。
- 司会者も言われたように、春は緑の季節だ。街でも森でもまた山でも新緑が溢れ返っている。木々の新芽が小さな粒々から一人前の葉の形になってゆく様はとても可愛らしい。

### 今後のドイツ語談話室の予定

第224回 2023年6月17日(土)14:00~16:00 テーマ : 日本とドイツでの贈り物

## Protokoll der 222. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 15. April 2023, 14 bis 16 Uhr

Thema: Der Vorfrühling

Dieses Mal hatte Frau Dorothea Goda die Gesprächsleitung und erzählte, dass die Bedeutung des Frühlings in Deutschland und in Japan jeweils sehr unterschiedlich ist. Der Frühling ist die Saison des Grün. Vom langen düsteren Winter befreit fühlt man sich heiter. Die Berge und Wälder sind überall von Grün bedeckt. Man trägt wieder leichtere und hellere Kleidung, überall findet sich ein Neubeginn.

Dieses Mal hat auch Herr Wolfgang Nitz, der ehemalige Vorsitzende der OAG in Okamoto, an der Gesprächsrunde teilgenommen. Er war in der Zwischenzeit in Deutschland, nun wohnt er wieder in Japan, in Kakogawa.

Hier einige der Wortmeldungen zum Thema :

- Ein Teilnehmer sprach von der Frühlingsmüdigkeit. Der chinesische Poet, Mo Ko Nen, hat dieses Phänomen in seinem Gedicht „Shun Gyo“ verarbeitet.
- Eine Teilnehmerin erinnert sich im Frühling oft an den berühmten Satz aus dem „Makura-no soshi“ („Kopfkissenbuch der Sei Shonagon“), „Im Frühling ist's die Morgendämmerung“. Diese Stelle resoniert mit dem Gefühl vieler Menschen in Japan.
- Eine andere Teilnehmerin erwähnte die „Spargel-Saison“. Bei Spargel denkt man in Deutschland vor allem an den großen weißen Spargel, in Japan bekommt man meist nur den kleinen grünen. Weißer Spargel ist mit Buttersauce am besten.
- Ein Teilnehmer erinnert daran, dass früher der Schulbeginn und die Zeit der Kirschblüte immer zusammenfielen. Heute, wegen der globalen Erwärmungen ist die Blüte bei Schulbeginn meist schon vorbei, was sehr schade ist.
- Ein Teilnehmer erwähnte, dass die Zeit der Kirschblüte aber auch die Zeit der Pollenallergien ist. Nach dem Zweiten Weltkrieg hat die japanische Regierung über das ganze Land hinweg viele japanische Zedern gepflanzt, da diese schnell wachsen. Diese Zedernbäume sind heute eine besonders häufige Ursache für Allergien.
- Eine andere Teilnehmerin denkt, dass die Häufigkeit der Pollenallergien auch eine Nebenerscheinung von vermehrtem Medikamentengebrauch ist. Man greift in Japan heutzutage relativ schnell zu Medikamenten.
- Eine Teilnehmerin erzählte von ihrem Garten mit seinen Bäumen und Blumen, die nun in voller Blüte stehen, was aber auch viel Gartenarbeit bedeutet. In dieser Jahreszeit erinnert sie sich oft an das Lied, „Kitaguni no Haru“, das den Frühling in Nord-Japan besingt.
- Ein Teilnehmer erfreut sich auch besonders am frischen Grün. Es ist sehr schön anzusehen, wie die kleinen Knospen größer werden und sich langsam zu Blättern formen.

### **Nächste Treffen:**

Samstag, 17. Juni 2023, 14 bis 16 Uhr, Thema: Geschenke in Japan und Deutschland

### **Stammtisch mit Zoom**

## **ドイツ語留学を前にして**

3月の Stammtisch mit Zoom で、兵庫県立西宮高校でドイツ語を教えている井川伸子さんにお話しをして頂きました。ドイツを習っている若い人はどう思っているのかしら？

そこで今度は、柘田先生のクラスでドイツを勉強している若い人に登場していただきます。

国立明石工業高等専門学校生の大塚彩織さん、後藤歌子さん、加藤優太さんは今年の夏からドイツに留学する予定で、目下ドイツ語の勉強中です。Stammtisch mit Zoom を開催した5月20日、あいにく後藤さんはソフトボール部の試合があり、大塚さんと加藤さんの二人にZoomで話をお聞きしました。

大塚さんは医学や工学に関心があり、そういう方面に進みたいと思っている一方、語学にも興味があり、小学生の時に英語劇をし、今はESSに入り、スチューデント・アンバサダーとして留学生のサポートをしています。コロナの時にはオンラインで英会話に参加し、K-POPに夢中になって韓国語も学び、ドイツ語は3つ目の外国語です。

加藤さんはソフトウェアの会社を起業したいという夢があり、その実現に向けて力をつけるために、学校の先生が授業で紹介していたYFUに応募することを決めました。YFUとは Youth for Understanding の略で、公益財団法人YFU国際交流財団が日本の高校生を海外のYFU交流国(現在45ヶ国)の中の16ヶ国に1年間派遣するプログラムです。このプログラムに参加する人はホームステイしながら地元の学校に1年間通います。加藤さんは情報系の勉強がしたくて、第1希望:アメリカ、第2希望:ドイツを挙げたところ、アメリカは希望者が多くてドイツになりました。ITというとGoogleのようなアメリカの大企業のイメージがありますが、ドイツはもっと小規模だけど精度のいい会社があり、政府もそれを推進しているのだそうです。

三人はそれに応募して合格し、ドイツへの留学が決まったのが昨年とのこと、そして今年になってからドイツ語を勉強しています。ドイツ語はどうですかと尋ねると、文法は難しいけれど、言語の歴史を知るの面白い(加藤さん)とか、楽しいので続けたい(大塚さん)と、とても積極的です。実際、ドイツ人の家庭にホームステイして、そこから地元のギムナジウムか専門学校に通うとなると、日常的にドイツ語を使うこととなります。

そうすると教える側もそれに合わせてということで、柘田先生の方も中・高校生に大学受験用の細かい文法を教えるやり方ではなく、コミュニケーションに役立つドイツ語を中心に教えておられるそうです。

ホームステイ先は未だ決まっていますが、8月になればドイツで約3週間の語学研修があり、それからホームステイ先の家庭に行き、学校に通うこととなります。勉強以外にしたいことを尋ねると、大塚さんは宝塚が好きなのでオペラに行ってみたくて。また子供の頃にバレエを習っていたのでダンスも好きとのこと(オペラやダンス、ドイツはどこの町に行っても見られますよ)。加藤さんはギターとドラムを演奏することが好きなので、それを続けたいとのこと。それにお城が好きなので、ドイツのお城を見たいと(ノイシュバンシュタイン城をはじめ、ライン河沿いにお城がたくさんありますから、楽しみですね)。

若い方たちは、勉強に遊びに夢がいっぱいです。

(理事 押尾 愛子)

## 6月の Stammtisch mit Zoom のお知らせ

6月は休会させていただきます。

### 会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。今月は休載します。

(投稿規定: MSPゴシック12ポイント、A4 1枚程度まで(多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第4月曜日までに事務室へ)

## Stammtisch

### 6月の Stammtisch

日 時： 2023年6月17日(土)16:15～18:00

場 所： 神戸日独協会会議室

話 題： 今後の Stammtisch について

ドイツでの Stammtisch のようにお好きな飲み物と茶菓を取りながら、気楽に会員同士のご歓談をお楽しみいただく会です。奮ってご参加ください。

毎回テーマを決めるか、ネイティブの方とどのように交流するか、会場は、飲食は、などなど今後の形式・運営方法について協議をします。ご参加をお待ちしています。

出席いただける方は、事務局へ電話・メールにてご連絡ください。当日参加も可。

### 6月の企画委員会開催のお知らせ

この会は協会と会員との交流のための会です。4月より「月例懇談会」を名称・内容を変更して新たに「企画委員会」として開催しています。是非とも参加し、協会の運営や企画などにご意見をください。

日 時： 2023年6月10日(土)15:00～17:00

場 所： 神戸日独協会会議室

話 題： 協会事務所の移転と移転後の事務所の形態及び新年度の活動について。

大事なテーマですので是非ともご参加いただき、ご意見を願います。ご出席いただける方は、事務局へ電話・メールにてご連絡ください。当日参加も可。

## 事務局移転情報

### 神戸リガッタ・アンド・アスレチック・倶楽部所在地



### 移転作業のご協力について

会報前月号にて「事務所移転作業にご協力ください」のお願いをしましたところ、早速にご協力をお申し出いただきありがとうございました。

新事務室の改装工事が遅れているために、現在まだ引越日が決まっていません。近々に決定しますので、引越準備日程と準備内容が決まり次第、ご協力をお申し出いただいた方にはお知らせを致します。日程と内容のお合いする日時にご協力をお願いします。

引越荷物の梱包・開梱及び軽量物の移送には多くの人の手を必要とします。是非とも多くの方のご協力をお願いします。

### 蔵書の処分について

ドイツ語講座とドイツ文化教室及び協会活動にとって不可欠で引き続き保存する書籍の選別はほぼ完了しました。現在ドイツ及び国際交流関係機関・団体への寄贈を打診中です。会員の希望に応じた譲渡に関しましては今しばらくお待ちください。ホームページ等でご連絡いたします。

## 事務室からのお知らせ

### ホームページ編集にご協力いただける方募集

協会のホームページの更新にご協力をいただけないでしょうか。週に3～5時間協会事務室にて記事の更新をお願いします。更新内容などについてはお問合せください。

### 会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。是非ともお手伝いをお願いします。次回の印刷と発送は6月22日(木)を予定しています。

お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡ください。

印刷：兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送：神戸日独協会にて、12:00～

### これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
6月10日(土) 15:00～17:00	企画委員会	神戸日独協会会議室	当日参加可
6月17日(土) 14:00～16:00	ドイツ語談話室	神戸日独協会会議室	当日参加可
6月17日(土) 16:15～18:00	Stammtisch	神戸日独協会会議室	当日参加可